

## ギニアグラス新品種「ナツカゼ」について

### 第2報 収量等の生育特性

清水矩宏・佐藤博保・中川 仁 (九州農業試験場)

Norihiro SHIMIZU, Hiroyasu SATO and Hitoshi NAKAGAWA :  
A New Cultivar of Tropical Grass, NATSUKAZE Guineagrass.  
2. Characteristics of Growth and Yield

前報に続きギニアグラス新品種「ナツカゼ」の生育特性および栽培上の留意点等について概要を示す。

#### 1. 生育特性の概要

各特性についてグリーンバンニク (GP) との比較を示したのが第1表である。主要点を示すと次の様である。

1) 初期生育 ナツカゼは出芽後速やかに草丈の伸長が始まり、特に葉面積の拡大が大きく播種後45日目でGPの1.6倍にも達し、初期生育がきわめて良好であった。これをうけて、1番草の草丈、収量はギニアグラス諸系統の中でも最も優れていた。

2) 草収量 沖縄から関東まで13カ所で行われた地域適応性試験の結果は第1図に示すとおりである。ナツカゼの単年利用における収量は、いずれの場所、また年次においても常にGP等よりは顕著に多収であった。乾物率が他の系統に比較して低い傾向がみられたため、全場所平均でみた場合、生草収量は対GP比が151 (実収量1162kg/a)であったのに対し、乾物収量はそれが141 (実収量181kg/a)と10%の差となった。

沖縄県畜産試験場では、1982年から3カ年間多年利用を行った。ナツカゼは、1年目は他の系統よりも多収を示したが、2年目以降は他の大部分の系統が1年目を上回る多収を示したのに対し、逆に減収し、3年間の合計収量はGPと大差なかった。これは、ナツカゼの親系統が1年生であることを反映したものと推定される。

3) 環境耐性 ナツカゼは夏季の高温・早ばつ下でも草丈伸長は低下することなく、耐暑・耐乾性は強いといえる。しかし、湛水状態に近い湿田では大きく減収することがあった。なお、九州農業試験場線虫研究室の調査で、ナツカゼはサツマイモネコブセンチュウをはじめ主要な線虫に対してその増殖を顕著に抑制することが見出

第1表 ナツカゼの特性概要

形質	品 種		
	ナツカゼ	グリーンバンニク	
発芽の良否	良	中	
初期 播種45日目草丈 cm	79	63	
伸 〃 葉面積cm <sup>2</sup>	2170	1352	
長 〃 乾物重g	12.2	8.4	
性 初期の草勢	極良	やや不良	
1番草草丈cm	123	100	
〃 乾物収量kg/a	36.5	23.5	
草 収 量	生草収量kg/a	1162	790
	乾物率%	16.0	16.9
	乾物収量kg/a	181	132
	葉部割合%	43.3	36.7
	多年利用の永続性	不良	不良
環 境 耐 性	耐暑・耐乾性	強	強
	耐湿性	弱	極弱
	線虫抑制効果	大	大
飼 料 成 分	粗蛋白質含有率%		
	葉部	20.4	20.7
	茎部	11.4	11.1
	粗蛋白質収量kg/a	35.0	26.2
乾草適性	中	中	
採種量kg/a	2.74	0.71	

された。病虫の被害はほとんど認められなかった。

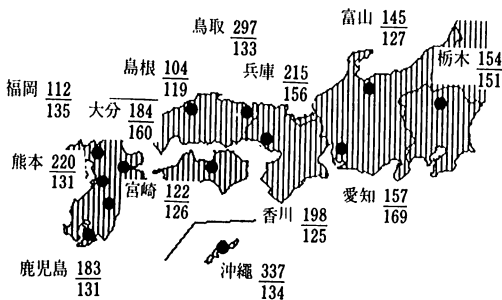
4) 飼料成分 飼料成分からみた栄養価はGP等と変わらないが、葉部割合が高いことにより、ナツカゼの粗タンパク質収量はかなり高くなる特徴が認められた。消化率は、NDF、ADF およびリグニンの分析からギニアグラスとしては中程度と推定された。さらに、乳牛の採食量も多く、し好性も良好といえる。

5) 乾草適性 乾燥速度は程が太いもののGP並みである。

6) 採種性 種子収量はGPより高く、10a当たり20kg以上は安定して採種できる。

#### 2. 適地および栽培利用上の留意点

夏季に高温になる関東以西の広い地域で安定多収を示すことから、夏期1年生作物としてこれらの地域の既耕地における乾草生産および青刈給与に適している。南西諸島においても単年利用には適するが、永続性に劣るため多年利用には向かない。播種適期は関東～九州では4月下旬から6月中旬までと広く、また、線虫の増殖抑制効果を有することから、作付体系上有利である。一方、湛水状態に近い湿田では収量が減少するので、水田転換畑等で栽培する場合は排水に注意する必要がある。



数値は乾物収量 対グリーンバンニク比 (全実施年の平均、沖縄は初年目のみ)  
第1図 各地域における乾物収量